

## 認知症新薬「レカネマブ」承認に向けて！

65歳以上の認知症患者は2020年時点で約600万人と推計され、このうち6割以上をアルツハイマー病が占めています。高齢化に伴い増加していて、多くの製薬企業が治療薬の開発に取り組んでいます。アルツハイマー病は、脳に蓄積し神経細胞を壊すタンパク質「アミロイドベータ」が原因と考えられていて、このタンパク質に直接働きかける薬の開発が主流になっています。

製薬大手のエーザイは、先日アメリカのバイオジェンと開発中のアルツハイマー病に対する新薬「レカネマブ」について、最終段階の臨床試験（治験）で症状の悪化を抑制する効果を確認したと発表しました。日本で本年度中に申請を行い、2023年の承認を目指しています。

「レカネマブ」は、病気の原因とされる脳内に蓄積して神経細胞を壊す「アミロイドベータ」の除去を狙った新しいタイプの薬です。国内ではこれまでに症状を和らげる薬は実用化されていますが、原因に直接働きかけ、進行を遅らせる薬は承認されていません。

治験は日本や欧米、中国でアルツハイマー病早期患者の1795人を対象に実施。2週間に1回の静脈注射でレカネマブを投与したグループと偽薬のグループの状態を比較しました。開始から1年半後、記憶や判断力などの認知機能や身体活動などを総合的に調べた結果、レカネマブを投与したグループでは、症状の悪化が27%抑制されたということが明らかになりました。

レカネマブの効果は開始半年から確認されています。画像検査では投与された12～17%に、副作用とみられる脳の浮腫や出血などが確認されましたが、多くは無症状かつ一時的なもので、制御可能だと言われています。

エーザイとバイオジェンの両社は先行して似た仕組みの治療薬「アデュカヌマブ」を開発したのですが、厚生労働省専門部会は昨年12月、有効性を明確に判断するのが困難として承認を先送りしました。レカネマブはその後続薬です。アミロイドベータに、より効率的に働きかけることが特徴ということです。

レカネマブは昨年12月、アメリカの食品医薬品局（FDA）で迅速審査の指定を受け、現在審査中です。両社はアメリカや欧州でも23年中の承認を目指しています。



## ラジオ体操の歴史

「腕を前から上にあげて、大きく背伸びの運動から、はいっ！」誰もが、この掛け声に合わせて体を動かしたことがあると思います。昭和初期「国民保健体操」として始まり、現在の「ラジオ体操」は3代目です。高齢化社会の進展に加え、コロナ禍も相まって健康への関心はより高まっています。「いつでも・どこでも・だれでも」をコンセプトに広く普及したラジオ体操は、健康的な生活習慣への第一歩としてオススメです。

そもそもラジオ体操の発祥は日本ではありません。ルーツの1つはなんと、アメリカです。「グッドモーニング、エブリバディ！目が覚めたらパジャマを脱ぎ、それから部屋の窓を開けましょう」1925（大正14）年3月30日、起床ラッパの音とともにこんな語り出しで新番組が始まりました。腕回し、背伸び、屈伸などに加え、自転車をこぐような動きなど32種類の体操です。ピアノの伴奏に合わせて「エクササイズマン」が体操の説明をするスタイルでした。番組はアメリカのメトロポリタン生命が提供していました。当時保険事業は、「死の換金事業」などと蔑まれていたので、健康増進への貢献によってイメージアップを図る狙いがあったそうです。

これに逡巡省簡易保険局が着目しました。保険事業の復興に加え、国民の健康状態改善も図れるとして日本放送協会や文部省などに協力を依頼し、昭和3年11月から放送が始まりました。その後ラジオ体操は日本人に浸透し、社会状況が変わっても愛され続けています。

ラジオ体操は、たった3分で、全身の600ある筋肉のうち400を動かせることが分かっています。1つ1つの動作に意味のある効率的な体操なのです。



## <今週のオススメレシピ♪大根の皮のピリ辛ナムル★>

【材料(2人分)】大根の皮(100g) 白いりごま(小さじ1) ごま油(小さじ2)  
しょうゆ(小さじ1) 一味唐辛子(小さじ1/2)

【作り方】①大根の皮はよく洗って水気を拭き、ボウルに入れる  
②ごま油をボウルに入れ、手でなじませる  
③しょうゆ・白いりごま・一味唐辛子を加えて和えたら出来上がり！

